

5月17日(土) 快晴 Marmaris

今日はマルマリスから10NM南にあるチフトリック(Ciftlik)に行く予定だ。昨日頼んでおいた洗濯物を8時過ぎに受け取った後、9時過ぎに出港しようとしてエンジンをかけるがエンジンの掛かりが悪い。初めてケースだったので早速マリーナの事務所に修理を頼む。幸い直ぐメカニックが来て調べてくれる。バッテリーは問題なくスターターに原因があり、スターターを外して修理してから取り付けてエンジンをスタートする。快調なスタートだった。そうこうしている内にお昼になりお握りとトン汁の昼食を頂く。そして午後メカニックのスーパーバイザーが最終点検来る。ここはCAVOKと同じジャーのヨットチャーターをやっていてヤンマーのエンジンも詳しく全体も見てくれた。冷却用の海水ポンプ(Seawater Pump)が悪いということでこれも部品を交換した。トラブル前の点検で発見出来助かる。

行く予定のチフトリックに予約しておいたが遅くなるので明日になる旨連絡する。

航海しているヨットに不具合が起こるのは日常茶飯事であるがタイミングと起った場所によって運不運がある。しっかりしたメカニックのいたマリーナでの出来事で助かる。トルコのメカニックは丁寧で確実な作業をするので安心だ。

3時過ぎにすべての作業が終わり午後はゆっくり過ごす。久しぶりにデッキで読書をする。

夕食は胃に優しい、ひじきと胡瓜の浅漬けでご飯を頂く。シンプルな日本食は日本人の体の為にも必要だ。

午後吹き出した風も治まり静か海で眠りにつく。

5月18日(日) Marmaris~Ciftlik(11NM) 晴れ 北西10ノット

5泊滞在したマルマリスから11NM先のチフトリックに向け09:15に舳を解く。出港の準備をしているとマリーナのスタッフが出港を手伝いに来てくれる。

静かな湾を北西から吹き出した順風に乗って青い海に乗り出す、気持ち良いセーリングをする。

湾の出口の半島を越えたすぐ先がチフトリック湾だ。チフトリックは南トルコ案内のクルージング雑誌で知った。雑誌に載っている写真が素晴らしく寄ってみたいとなったところだ。こちらは雑誌含めてクルージングに関する情報が多く助かる。

湾の中に入ると4つの栈橋がありそれぞれの栈橋が旗を振って客寄せをしている。

我々は予約してあったRafet Babaのレストラン栈橋に舳う。

いつもの到着してからのビールを飲んだ後冷やしソーメンをお昼に頂く。午後は海風に吹かれながらそれぞれ読書したりうたた寝したり過ごす。私はうたた寝の後泳ぐ。海水の透明度が良く泳いでいて気持ちが良い。但し水温が20度位なので、長くは泳げず暫く泳いでから上がり砂浜で体を温めてから又泳ぐという感じだった。

海岸から少し上の丘から見る湾の光景も太陽の日差しと海の青と相まって素晴らしい光景だった。

夕食はこの桟橋のレストランで夕暮れの湾を眺めながら、メゼにイワシの酢漬け、マッシュルームのチーズ揚げ、メインに小型の Sea Bream (鯛の一種) のグリル、イカのグリルとマトンのつくねを一つ覚えの白のチャンカヤワインで食べる。すべて美味しかった。

素晴らしい湾なのでもう一日滞在することにして眠りにつく。

5月19日(月) Ciftlik 曇り 北西 10~20 ノット

朝青空であったが雲が出て来た。未だ地中海の夏の天候になっていない。

朝食後静かな風光明媚な湾なのでお昼まで各自読書等のんびり楽しむ。長期の航海生活ではのんびりする時間も大事だ。

昨日 20 艇程係留していた艇もそれぞれ出て行く。お昼過ぎには 4 艇程になる。

お昼はラーメンを頂き、昼休みの後皆で湾を囲む道を散策する。

浜辺には日光浴用の長椅子が並んでいるが未だ海水浴客は少なく空いている。長椅子に横になりうたた寝をした後泳ぐ水が綺麗で少し冷たいが気持ち良い。水温は 20.5 度通常 22 度以上が海水浴に適しているようだ。

いつの間にか桟橋には昨日と同じ位の 20 艇程度の艇が係留していた。

夕食はこの桟橋のレストランの Rahet Baba で昨日美味しかったイワシの酢漬け、ナスのトマトソース煮、チキンサラダ、イカのグリル、ラムのキャサロールを食べる。3人で食べて昨年と同じ 150 トルコリラ (約 7500 円) ワインと係留代入れてのこの値段なので嬉しくなる。

お腹一杯になって艇に戻り就寝する。

5月20日(火) Ciftlik~Bozukale(15NM) 晴れ 南~西 微風

ボズカッレに向かうのに向かい風の西風が午後吹く予報だったので、午前中にボズカッレに着くよう 8:45 に舳いを解く。静かな海を機走で全レグ走る。15NM の近い距離なのであと云う間に半島の丘の上に見慣れたベネチア時代の城壁が見えてくる。

昨年泊めたアリババ・レストランの桟橋に着ける。アリババの人が私のことを覚えてくれた。ここの入り江は私の経験ではトップ 3 に入る綺麗な景観の場所だ。

桟橋の下はそこまで透き通り、入り江の周りの山々が柔らかく入り江を包んでいる。

艇のビールをうっかりして切らしてしまったのでアリババに行き 3 人で到着の乾杯をする。

隣にはイギリス人の年配の夫婦の艇が先に係留してあった。

お昼はゴマダレの付け蕎麦を頂く。昨年の日誌を見てみると、何と同じお蕎麦がお昼だった。

食休みをした後城塞に登り湾内の景色を眺める。直下にアリババの桟橋がありきれいな水槽の中にヨットが浮かんでいるように綺麗に見える。

歩いて火照った体を泳いで冷やす。未だ水温が 20 度なので長く泳いでいると体が冷える

ので一度上がり日光浴してから再度泳ぐ。

佐和子さんと悦子は艇のシャワーを浴びる。私はアリババのシャワーで浴びた。

ここは島ではないが陸路が無く船で物資を運んでいる。電気も自家発電になっている。

そうこうしているうち最初係留艇が3艇だったのが16時過ぎには15艇位になっていた。

夕食はアリババ・レストランに行くが、掘立小屋の店構えだが、15艇分約60人分のテーブルが用意されていた。

ビュフェ形式のメゼを各自取り、サラダ、カラマリフライ、オラダー（鯛の一種）のグリルを頼む。静かな入り江の中で賑やかな夕食が始まった。

11艇のチャーターヨットで来たグループは男ばかりでオーストリア、英国、カナダ、フランスの仲間の集まりだそうだ。

未だ明るい19時過ぎより食事を始めて、やっと暗くなった21時過ぎに艇に戻る。

5月21日（水）Bozukale 晴れ 微風

朝起きると両隣の艇は出港していた。

我々の朝食が終わるころには、ほとんどの艇が出て行って残っていたのは3艇程だったがその艇も出港して我々だけが残っている。

静かな綺麗な海の入り江を暫く独占しているようで気持ちが良い。

ラバーボートを降ろして遺跡がある浜に行こうと思ったがエンジンがかからず諦める。

前に一度会ったのだがオイルがシリンダーに混じったようで整備が必要になる。

お昼になると夫婦2人の艇が入ってきた。夕方になると増えて今日は6艇程の係留になる。静かな午前中をのんびり過ごす。

お昼は冷やしそうめんをレストランで仕入れたビールで頂く。一気に夏になったような天気になり日陰に居ないと暑すぎた。冷やしソーメンとビールがぴったりだった。

佐和子さんと悦子はそれぞれ読書をしたりして午後を過ごす。ここは私のインターネットキーでPCが繋がらないのでレストランに行きWIFIで繋ぎ調べごとをしてからコックピットの日陰で読書をしながらうたた寝をする。極上の時間だ。

隣に入ってきた艇がCAVOKの意味を聞いてきた。CAVOKの意味はCがCeiling, Aはand, VはVisibilityがOKと云う意味だ。これは航空用語で飛行場の天気を報じる略語で雲も視程も問題なし、つまり天気良好と云う意味の国際用語だが、彼はそれを確認する意味で聞いたようで、彼らはトルコ航空のパイロット達だった。彼らでルフトハンザ、アリタリアと3社のパイロットとヨットで隣同士になった。

17時前に陽はまだまだ高い所にあつて夕方のイメージでない。シャワー入る前にひと泳ぎする。透き通った海水で泳ぐとミネラルを含んだ冷泉に浸かるようで気持ち良い。

夕食はアリババ・レストランに行くが、夕方網で小魚を取っていたその小魚のフライとチキンとラムのシシケバブ、イカのグリル、サラダをレストランで食べる。小魚のフライが新鮮で美味しかった。

5月22日(木) Bozukale~Knidos(36NM) 快晴 北~西 微風~15ノット

今日はいつもより長い距離を走るの朝早めの06:40に舳を解く。もう一つ朝早く出る訳は、この地域の風は西風が主なので向かい風が強くなる午後過ぎになる前に到着したかったからでもある。午前中の風は陸風、海風の気ままな風が吹く。

コーヒーとパンをかじりながら出ていくが暫くすると北風の良い風が吹き出しセーリングで7ノット近くの速度が出て気持ち良い。でも気まぐれの風で1時間弱したらこの風も落ちて無風になる。機走していると今度は西から吹き出し再度セーリングを楽しむ。このエリアはギリシャの島と近接している。Simi島(ギリシャ)の南を通るか北を通るか風を受け方が違うが、西風が強くなる可能性があるので有利な風になる南側を選ぶ。ギリシャ領海を無断で走ることになるが問題なかった。

13:00に昨年夏に来たクニドス(Knidos)の湾に入る。栈橋に横付けする。この栈橋は水、電気が使えるので助かる。

お昼を五目寿司とお澄ましで頂く。朝パン一切れ食べただけなので空いたお腹に吸い込まれた。

クニドスの湾を挟んで両サイドには遺跡があり舳ってある艇の直ぐ脇にローマ劇場の遺跡が見える。食後見学に行く。湾を見渡すように丘の斜面に沿って神殿、ストア、教会、ローマ劇場、アゴラ、オデオンと遺跡が連なっていて、かなり大きな都市だったようだ。

ここは紀元前900年にドーリア人であるスパルタの植民地と建設された。その後ローマ、東ローマ時代と歴史が続いたようだ。古代ギリシャ彫刻家プラクシテレスによる、史上初の等身大の女性裸像、アフロディーテ像が置かれていたそうだが残念なことにこの像は現存していないそうだ。遺跡の切符切りの女の子が昨年来た僕を覚えていてくれた。

レストランでチャイを飲んだ後、澄み切った海で泳ぎシャワーを浴びる。浴びた後、皆さんとジントニックで夕暮れを楽しむ。

夕食はレストランで食べるがメゼ2点、サラダ、ヒメジのフライ、グルーパー(ハタ科クエの一種)のシシケバブを白ワインで食べるが210トルコリラ(約1万円)で場所の割には高かった。

皆さん朝早かったのと日照りと泳いだので艇に戻って直ぐ寝る。

5月23日(金) Knidos 快晴

底が透き通って見えるクニドス湾で今日はゆっくり過ごすことにする。

何も予定のない海の上での1日は極上な時間だ。

朝をいつものコーヒーで迎え、爽やかな青空を仰ぐ。午前中は読書を楽しむ。お昼に定番になったソーメンをインスタントの肉じゃがとお豆を頂く。このインスタント物もなかなかの味で日本の食文化技術の高さを称賛する。

午後各各自うたた寝をしたり読書をしたり気ままに過ごす。隣に係留していたシングル

ハンダーのドイツ人が足の裏に棘が刺さったとピンセットを借りに来る。見ると長い棘が足の裏に刺さっていた。悦子が棘を取ってあげる。

日陰に居ると涼しいが、日向に居ると汗をかいてくる。

日向に居た体を海に飛び込み冷やす。ついでにシャンプーと石鹸で体を洗う。海水パンツ2枚で過ごせる生活だ。

夕暮れをグラス片手に楽しむ。

何もない入り江での生活が続いているので艇内の食料も心細くなってきたが、夕食は冷蔵庫の残り物を使ったナス、ジャガイモ、玉ねぎ、にんにく、鳥のもも肉を使ったスパイシーなスープカレーを頂く。美味しかった。

食後ビミニ（日よけテント）を外して刻々と変化する空の色を楽しむ。21時は未だ薄暮だ。

静かな入り江で眠りにつく。

5月24日（土）Knidos 快晴 北西10ノット

やはりビミニを外してあると、太陽が上がってからの日射が強いのでコックピットでの朝食は暑すぎる。奥さん方の指示で早速ビミニをあげる。

桟橋で漁師が朝上げてきた網を整理していたので覗くと結構多くの魚が上がっていた。

イカが美味しそうだったので買おうとしたが残念ながら仕入れ先が決まっているとの事だった。イカを諦めて小ぶりのカサゴを二尾10トルコリラ（500円）で買う。

昼食前に灯台のある半島の西端にある丘に登る。この辺りは背の低い灌木だけなので丘に登りながらも地中海を見渡す景色が良い。春の残りのワイルドフラワーもまだまだきれいに咲いている。

海から吹き上げてくる風が汗ばんだ体に気持ち良い。

海辺に戻りただ一つのレストランに寄りビールで喉を干す。

お昼は艇で昨日の残りのカレーライスをご飯で頂く。

昨日迄チャーターヨットが多数来ていて入り江にアンカーリングしていたが今日は来ない。チャーターヨットは土曜日に借りて1週間後の金曜日に返すのが通常のパターンのせいだ。

その代わりではないが桟橋の方にオーナー艇が7艇係留した。夫婦での艇が多いがその出入りを見ていると二人のコンビネーションが手に取るようにわかり面白い。悦子もしかりみて勉強しているようだ。

風の関係で3日目のクニドスでの滞在になるが海の上での時間は飽きない。久しぶりにバケツで洗濯をする。お日様でカラカラに乾くので気持ち良い。地中海は潮の香りが無く、べとべとする塩を感じることは無い。

ひと泳ぎして桟橋の水のシャワーを浴びる。

夕食は今朝仕入れたカサゴをアクアパツァ風のスープ仕立てにして頂くが朝取り立て

のカサゴの新鮮な味がスープに浸み込み絶品の味であった。

至福な一日が今日も終わる。

5月25日(日) Knidos 快晴 北西10~15ノット

静かな湾でもう一日今日も過ごす。レストラン一つの遺跡に囲まれた入り江で4日間過ごしたが素晴らしい時を過ごしている。

今日も朝網をあげて帰って来た夫婦二人の漁船に昨日手に入らなかったイカを買いに行く。イカは人気あるようで売り先は決まっていたようだったが、その中から2杯のイカを出してくれた。支払いをしようとしたらいらぬとの事、細々と漁で生活をしている方に分けてくれるとの事、感激であった。昨日と同じ10トルコリラを渡そうとしたが受け取ろうしない。こちらも気持ちで何とか取ってくれるように行って10トルコリラを渡して帰ろうとしたら、ちょっと待てと云う。そして5トルコリラのお釣りをくれた。素朴な漁師の心に接した。

今日はお昼前に全員ひと泳ぎする。昼食を佐和子さんが今朝仕入れたイカを刺身とガーリックソテーに料理してくれ頂く。久しぶりのイカの刺身は絶品であった。

午後は一昨日行った遺跡と反対側の丘に登る。入り江の海の色が素晴らしい蒼だ。日射の照りつける中、海からの風が心地良い。

午後2時過ぎると次々にヨットが入ってくる。アンカーレッジもアンカーを打つ場所が無くなりうろうろ場所を探している艇が出てきた。

桟橋も一杯になり横抱きになる。何とCAVOK5の脇に4艇横抱きになった。殆どがチャーターヨットのグループで全部で6艇程来た。このグループのチャーターシステは、初めての海をチャーターボートで航海するのに安心で良い。と云うのはグループの先導にチャーター会社のプロがついていてすべての手配をしてくれる。

人気のある泊地には、泊地の確保のため午後2時前に到着するのを鉄則とする。

明日は上田さんがボドルムから帰国するのでボドルムに行く予定だがこのマリーナは結構混んでいるとの情報があったのでメールで予約をするが直ぐ返事がきて予約OKとの事で安心する。

マリーナに8日間入港していないので食料、ビール等が不足してきたので、今晚はこのレストランで食事する。サラダ、イカフライ、レッド・スナッパー(鯛の一種)をグリルして食べる。スナッパーの身は新鮮だったが少し焼きすぎの感がありもったいなかった。

白ワインを頼んで180トルコリラだった。値段含めて今一つのレストランであった。

但しレストランはチャーターヨットの人達で混んでいた。

静かな入り江が突然賑やかになったが23時過ぎには静かになった。

5月26日(月) Knidos~Bodrum(22NM) 快晴 微風~西10ノット

横抱きの4艇が出るのを待って朝食をとっている間にいつもの漁船が帰って来た。早速

漁船に行ってイカ4杯、カサゴ4尾を買う。気持ちの良い漁師夫婦ですっかり友達になった。

悦子は買った魚を処置して横抱きのヨットが出た後10時に舳いを解く。微風の静かな海面を機走する。2時間程走ると予報通りに西風になりアビームでセーリングを楽しむ。ギリシャのコス島とトルコのダッチャ半島の間を行き来するヨットと交差しながら走る。

お昼を貯蔵食料が尽きてきたので残り物で作った創作カレー風味の料理を頂く。

残り物でも、鶏肉、玉ねぎ、トマト、ピーマンが料理されたカレーで美味しかった。

騎士団が築いたボドルム城を見ながらマリーナに入港する。

ケメル以来1か月ぶりに給油するが1か月で110リットルの使用であった。

ラバーボートが来てくれポンツーンに15:00に舳う。入港の手続きを終了後、船外機のエンジンがかからなくなっていたので修理を依頼してボドルム城に行くが月曜日で休みだった。

久しぶりの買い出しをして帰ると既にエンジンの修理が終わり戻ってきていた。

水が十分使えるのでデッキを水洗いする。

今晚は上田さんのお別れ晩餐会なので今朝仕入れたイカを刺身と湯通しにして生姜醤油で、カサゴはアクアパッツァ風スープ味にして頂くがライトアップされたボドルム城を見ながらの夕食は一段と美味しかった。

ここのMilta Bodrum Marinaの係留料は高く108€だ。明日は上田さんを見送った後ボドルム城を挟んで反対側にある錨泊地にアンカーリングする予定だ。

5月27日(火) Bodrum~Bodrum (Kale Koyu) (1NM) 快晴 微風

今日は約一か月間最初のケメルから乗っていた上田佐和子さんが寄港する日だ。

昨日休館日に入れなかった15世紀にロードス島を拠点としていた騎士団が築いたボドルム城とマウソレウム廟に行く。ボドルム城は騎士団の城らしく、イタリア、フランス、イギリスと各塔が分かれて配置されてあった。ボドルムは紀元前5世紀のギリシャの歴史家ヘロドトスの出身地で城の入り口に彼の石像があった。

マウソレウム廟は紀元前4世紀にカリヤを収めていた王様の墓所だがエジプトのピラミッドと共に古代世界七不思議の一つに入っているが世界七大名跡ぐらいの意味であるらしい。

お昼を港沿いのレストランで食べるが夏の天気なのでビールが美味しい。

この後アレキサンダー大王が築いた城と海を見渡せるローマ劇場そして高台にある風車小屋にタクシーで回る。

シーツを朝クリーニングに出したので取りに行く。又プロパンガスを1本取り換える。

16時に頼んであったタクシーで上田さんはボドルム空港からイスタンブール経由で帰国する。1か月間当初はご主人と一緒にだったが後半は一人で良く頑張ってくれた。

上田さんを見送った後、CAVOK5をマリーナからボドルム城を挟んだ反対側の入り江の

Kale Koyu の湾に移す。

アンカーを打った後乾いた喉をブル（レモン、ジン、ビールのカクテル）で潤す。

夕食を暗くなる前の 19:30 から始める。日没は 20:20 だ。

甲イカの霜降りを生薑醤油そしてモツ煮をご飯で頂く。お昼結構食べたので丁度良いメニューだった。甲イカの霜降りが美味しかった。

静かな海の上での食事は最高だ。

5月28日（水）Bodrum ~ Gumusluk（15NM）晴れ 微風 ~ 南西 10 ノット

ボドラムの湾は岸辺のデスコの音が賑やかなので今日はここから半島を回り込んだ 15NM 北にあるギュミュスリュクの泊地に移動する。朝食後静かな海面の中、ボドルム城を見ながら 10:10 にアンカーを揚げる。

暫くすると南からの心地よい風が吹き出しセーリングを楽しむ。

ギリシャのコス島との間を滑るように走りながらお昼にラーメンをビールで頂く。好きな時間だ。

明日入港予定のトルグトレイスを過ぎてギュミュリュックの入り江に 13:50 アンカーを打つ。

全部で 15 艇位が狭い入り江に錨泊する。着いてからそれぞれのんびり悦子は読書、私は艇のちょっとした整備をする。

夕方泳いでデッキのシャワーを浴びる。夕焼けが綺麗に海面を照らす。

夕食はクニドスで手に入れたカサゴのアクアパツツアをチャンカヤの白ワインで頂くが、前回に引き続き非常に美味であった。

食後のチャイを飲んだ後そのままコックピットで暫く寝てしまう。静かな夕暮れであった。

5月29日（木）Gumusluk ~ Turgutreis（4NM）晴れ後曇り夜雨 南 10 ~ 30 ノット

静かな入り江でゆっくり過ごして予報の南風の強風が吹く前にトルグトレイスの D-marina に 11:15 アンカーを揚げて機走で向かう。マリーナに入る前に VHF でマリーナを呼び出すところに艇を置いてある稲次さんが VHF でマリーナに私の友人ですと伝えてくれた。稲次さんとは昨年 8 月にもここでお世話になっている。立教ヨット部の OB の白幡さんにご紹介して頂いた方だ。三井物産の OB で退職後グランドバンクス 42 を購入され 15 年に亘り地中海を楽しんでおられ、10 年前からここ D-Marina をホームポートとして夏の半年を楽しんでおられる。奥様といつもご一緒に私も見習いたい方だ。

マリーナに入ると直ぐラバーボートが来てくれポンツーンを案内してくれる。

稲次さんが舳を受け取ってくれる。事務所で手続きをした後稲次さんのハイドランジャー号にご招待を受けて稲庭うどんをご馳走になる。

戻ってからご馳走とビールで眠たくなり二人ともうたた寝をする。その後艇を悦子と洗

って汚れを落とす。

夕食は稲次さんがラム肉の美味しい所を案内してくださりタクシーで行く。このころから風が強くなり 40 ノット以上の風が吹き出す。海を見ると一面白波が立っている。沖には 3 艇のヨットが機走しているがしんどいと思う。

昔外洋レースをやっているときは瞬間 60 ノット以上の風も経験したが今は 30 ノットが私のマックスウインドだ。

稲次さんのお気に入りのお店だけあってラムチョップ、ラムシシ、キョフテが柔らかくジューシーで美味しかった。ご馳走になる。

艇に戻ると雨が降り出し相変わらず風が強い、時折突風混じりなので艇が棧橋にぶつからないよう船尾にフェンダーを用意したり、もう一本隣のレイドラインを取ったりして強風対策をする。朝方になって風が治まる。錨泊の後のマリーナでの休息は休まる。

5 月 30 日 (金) Turgutreis 晴れ後快晴 微風 ~ 南 10 ノット

朝方は昨日の残りの雲があったが徐々に取れて快晴になる。

今日は昼食に稲次夫妻を艇にご招待している。昨夜の雨に土が混じっていてデッキが汚れたので水洗いする。南からの風の時の雨は砂漠の土を含んでいるようだ。

マリーナ近接のスーパーで買い出しをする。

お昼は稲次ご夫婦をご招待する。牛引き、玉ねぎのソテー、ゆで卵をご飯に混ぜて食べるドライカレーだったが牛引きと玉ねぎが相まって評判が良かった。昨日ご馳走になったメロンを買い出しで買ってきて食べたが甘くて美味しいメロンだった。

お昼のビールが効いてコックピットで本を読んでいる内にうたた寝をしてしまう。

汚れていたフェンダーが洗剤で洗ってもきれいにならないのでシンナーで拭いて見たら汚れが取れた。

18:30 に稲次さんの案内で今日は町に魚を食べに行く。地元の人しか来そうもないレストランで隣の魚屋さんで魚を買ってそれを料理してくれる。

イカ、ヒメジ、スズキを買ってイカはカラマリリングへ、ヒメジはフライ、スズキはグリルしてもらう。

シンプルな調理だったが新鮮なお魚で美味しかった。いつの間にか 20 位あるテーブルが一杯になっていた。

帰り 21 時過ぎになったが西の空がまだうっすら明るく空の深い蒼が綺麗だった。

昨日と違った静かなマリーナで休みに着く。

5 月 31 日 (土) Turgutreis~Knidos (22NM) 快晴 西 10~15 ノット

土曜市があるとの事で稲次さんの案内で午前中 買い出しに行く。大きな衣服と野菜の市があり、新鮮な野菜果物を仕入れるがとっても安い。

買った野菜、果物はニンジン、トマト、さやえんどう、ズキーニ、ほうれん草、アボカ

ド、新ニンニク、ネギ、レモン、サクランボ、プラムと大量買いをする。

4日に日比谷夫妻、磯夫妻が日本から来るが生憎と4日から天気が悪い。

トルコのお天気はエーゲ海側と地中海側と大分変化がある。ポドルムはエーゲ海側で予報では4日以降も強風が吹く。地中海側ではその風も弱まるのでポドルムで彼らを待つのでなく地中海側のマルマリスで待つことも考えることにした。

その為もあってマルマリスに近いクニドスに再度行くことにした。

稲次さんの奥様の千恵子さんがお昼千恵子さんお気に入りのピデパンのお料理のご招待を受けるが涙を吞んで諦めて出港することにする。

11:20に稲次ご夫妻の見送りを受けて出港する。

穏やかな海で西からの順風を受けて気持ち良いセーリングをする。

馴染みになったクニドスの灯台を回り込み馴染みのお兄さんの指示を受けて15:30に棧橋に横付けする。前後に艇があり14mのCAVOK5がやっと入れるスペースに入れることが出来た。金曜日と云うことでチャーターヨットが来てなく何とか棧橋に横付けが出来た。

ここは何回も来てお気に入りの場所だ。早速悦子と泳ぐ。

夕食は今朝、仕入れた野菜を使ったほうれん草のおしたし、さやえんどうの煮つけ、鶏の照り焼きを美しい夕陽を見ながら頂く。極上な時間だった。

余談だがトルグトレイスは1泊の係留料が95ユーロ(約13000円)だがここは50トルコリラ(約2500円)だ。勿論施設は全然違うが自然の環境からしたらクニドスの方が断然良い。

6月1日(日) Knidos ~ Datca (20nm) 快晴 西南西 5~20 ノット

長期の予報を見ながら皆さんが乗艇する5日以降のスケジュールを考えながら今日は取りあえず、ポドルムにもマルマリスにも行ける中間地点のダッチャ(Datca)に行くことにする。前回買った漁師さんからイカと魚を買って調理した後11:20に舫いを解く。

お昼にラーメンを食べた後、ちょっと気になっていた途中にある港Palamutに寄ってみるが狭い中に結構艇が係留してあり港に入らずダッチャに向かう。

Palamutの手前から追い風になる西南西が吹き出し最高20ノットになる。フリーの帆走で7ノットの速度で気持ち良いセーリングを楽しむ。

14:40にアンカーを打ってスターン着けでダッチャの岸壁に舫う。小さなリゾート村と云う感じで港の周りに小綺麗なレストランが軒を並べていた。

ここも遅い時間になると係留スペースが無くなる感じだ。但し港につながった湾は良い泊地になっていて何艇も錨泊していた。

港の脇は砂浜の海水浴場で水もきれいだった。早速泳ぐ。

両サイドにヨットと岸壁は人通りが多いのでデッキでシャワーを浴びる事が出来ず久しぶりで室内でのシャワーを浴びる。

浴びた後のさっぱりした体で飲むビールは美味しい。東には入道雲が湧きたち夕陽に照

らされて綺麗だった。いつも入道雲を見ると航海中めぐり合わなくて良かったなと思う。

日没は 20:20 なので長い一日を楽しめる。

夕食はニンジンとさやえんどうの煮物、ピーマン、今朝仕入れた魚のアクアパッツアを頂く。

毎日の夕食が楽しみだ。

静かな港で明日の行先を考えながら眠りにつく。

6月2日(月) Datca~Datca(36NM) 晴れ後曇り 微風~西南西 15 ノット

天候の都合があり、日比谷、磯夫妻を Bodrum で迎えるか Marmaris にするか悩むところであるが天気予報から Marmaris に向けて出港予定する。

隣の艇が出港準備をしていたので起きるがアンカーチェーンが CAVOK 5 と交差している可能性があるため後からアンカーを打った我々が先に舳を解いて出港する。

アンカーを打っての岩壁着けはこの問題がある。

約 20NM 弱走ったところで天気をチェックするとボドルム付近の天候の回復が早い様なので当初の乗船予定の Bodrum で両夫妻を迎えることにして来た道を引き返す。

引き返しの帆走は 15 ノット前後の斜め前の横風を受け快調に 7 ノット前後のスピードを楽しむ。

ダッチャでは、明日早朝に Bodorum 近接の Turgutreis に戻るため今回は錨泊する。昨日は 5 艇程錨泊していたが 1 艇もいない。岸壁に係留していたヨットも殆ど出港していた。

アンカーを打ってからラーメンのお昼をビールで頂く。

風が強いので泳ぐのは控えてデッキでノンビリ過ごす。そのうち続々とヨットとガレット船が入ってきた。ヨットはチャーターヨットが多い。あった云う間に岸壁は満杯になる。

錨泊艇も 6 艇程に増える。

各艇の係留の仕方、錨泊の仕方を見ている楽しい実地勉強だ。岸壁に係留しようと思っただけで中々上手く行かず 1 時間ほどして諦めて錨泊したチャーターヨットもあった。

今日は泳がずデッキでシャワーを浴びてから夕食にする。

今日のメインは鶏の照り焼き、ポテトサラダ、グリーンピースライスとグリーンピース、さやえんどう、ニンジン、トマトのトルコ風ごった煮を頂く。

今日も一日自然の中で至福の時間を二人で過ごした。

6月3日(火) Datca~Turgutreis(42NM) 曇り 微風

低気圧の接近に伴い午後遅くから風が強い予報だったので 15 時前にはトルグトレイスに着くよう、朝食前 0710 にアンカーを揚げる。

微風の中静かな海面を機走する。珍しく曇天だが海の上を走っていると気分爽快だ。ギリシャのコス島との海峡を過ぎてから昼食をとる。昨日の残りの照り焼き丼を小松菜とお揚げの味噌汁で頂くが、空いていたお腹に丼が美味しかった。

稲次さんにトルグトレイスの D-Marin に予約をお願いしてあったので安心だった。

予定の 14 時前 13:40 に D-Marin の稲次さんのハイドロジア号の隣に舫う。スタッフがラバーボートで案内と舫いの手伝いをしてくれた。稲次ご夫妻の歓迎を受ける。

早速明日から日比谷、磯夫妻が搭乗するのでその準備にマリーナに隣接しているミグロスで買い物をする。

悦子は稲次ご夫妻を今晚は CAVOK5 に招待しているのでその準備をする。

私は明日の迎えの車の手配やヨットの部品を探す。

稲次ご夫妻を招待しての夕食は、エビとガーリックのオリーブ煮、グリーンピースの卵とじ、トマトとルッコラのサラダ、イカの霜降りの生姜醤油、ベーコン肉じゃが、カサゴのアクアパツアそれと稲次さんの持ってきて頂いたしゃけの頭をほぐしたお味噌汁と白菜漬けをチャムカレの白ワインで頂く。

いずれも美味しかったがイカの霜降りとしゃけ味噌汁が最高に美味しかった。

夕方遅くなるに従い風が強くなる。

増し舫いをして休みにつく。

6 月 4 日 (水) Turgutreis 曇り時々晴れ 南南東 20~40 ノット

朝も風は相変わらず強く吹いている。

朝食を済まし買い物に行こうとすると携帯が鳴る。電話に出ると電波状況が悪く、良く聞き取れないが田辺と云う名前だけは判別出来た。そのうちガードマンが来てあなたの友人が来ているとの事でゲートに行くと何と田辺さんが来ていた。彼は ANA 時代の同じパイロットの仲間だ。彼とはコンタクトは一切取っていなかったのだが三田ヨットのホームページで日誌を見て、この時期トルグトレイスに居るのを知って来たそうだ。彼の御嬢さんがドイツ人に嫁ぎ現在ドイツ在中で御嬢さん夫婦を訪ねたついでに思い立ってトルグトレイスに来たついでだそうだ。

久しぶりの昔の仲間との偶然の出会いで話が弾んだ。

こうして訪ねてきてくれるのは嬉しいものだ。

お昼は一緒にトルグトレイスの町を廻った後、典型的なトルコ料理のギョズレメ、チキンシシ、ラムのキャサロールを食べる。残念ながらこの店はアルコールが無くトルコ人が良く飲むアイランを飲む。

買い物をして艇に戻る。田辺さんはワザワザお土産にシャンペンを持ってきてくれ、ビールの差し入れまでしてくれた。

今夜半日比谷夫妻、磯夫妻が到着するが明日一緒にボドルム観光を誘う。

彼がホテルに戻った後、艇を洗う。昨日の雨はレッドレインと云って砂漠の土が混じっていて艇が汚れていた。

夕食を済ました後頼んであった 8 人乗りのタクシーに乗って空港に迎えに行く。ここから空港迄約 50 KM あり 1 時間弱で着く。

イスタンブールからのフライトでミラス・ボドルム空港着 22:15 だったがほぼ予定通りに着く。久しぶりに懐かし日比谷夫妻、磯夫妻と再会する。

艇に着いてから一杯飲みながら久しぶりの再会で話が弾んだ後休みに着く。

6月5日(木) Turgutreis 曇り後晴れ 北西 20~30 ノット

相変わらず風が強い。今日はボドルム観光に行くことにする。長旅の日比谷、磯両夫妻は一晩ぐっすり寝て時差もすっかりとれたようだ。飛行機での移動は地球の自転と同方向になる西行きが時差に関しては影響が少ない。

朝食後悦子達はこれからの食料の買い出しに行く。私はフェンダーカバーを購入したり備品の整理をしたりして11時頃訪ねてくる予定の田辺さんを待つ。

12時頃買い物から皆さん帰って来たのでお昼を食べがてら町に出る。

ここも衣料品店が多くコピー商品が出回っているがコピーと云えども品物は良い。

お昼はラムケバブとチキンケバブを分けて食べる。ケバブは何処で食べても野菜とお肉の混ざり具合が良く美味しい。

昼食後ドルムシュに乗ってボドルムに行きボドルム城を見学する。私は前回見たので港を散策しながら皆さんを外で待つ。

結構良い時間になり帰ってからコックピットで一杯やりながらそれぞれシャワーに入る。

夕食は前回稲次さんに連れて行っていただいたフィッシュ・レストランに行き魚屋さんでスズキと小魚を購入してスズキはグリル、小魚はフライにして食べる。グリルはオリーブオイルを使ってあり上手に焼きあがっていた。小魚は魚屋が今日とりたてのフレッシュな魚と云うだけあって新鮮で美味しかった。

22時過ぎに艇に戻り休みに就く。

6月6日(金) Turgutreis 晴れ 南西 15~25 ノット

今日も強風で出港は予定せずここに停泊することにする。

のんびりデーでそれぞれゆっくり過ごす。風は強いが快晴なので私は洗濯を久しぶりにする。

お昼からコックピットで酒盛りが始まりそのままお昼にチャーハンを頂く。

3時過ぎに田辺さんがビールの差し入れを持って来艇して来てくれる。暫くおしゃべりをした後ホテルに戻る。明日ドイツに戻るそうだ。計画表だけを頼りに良く来てくれたものだ。

夕方稲次さんが予約しておいてくれたタクシーで海岸近くにあるレストランに行く。前回来たとき稲次さんに連れて行ってもらった店だ。稲次さんが注文してくれ、メゼ、ラムチョップ、シシケバブ、キョフテ、サラダをラキで食べるが地元トルコの美味しい料理だった。

艇に戻りシャワーを浴びて艇内でナイトキャップをワイワイとして休む。

6月7日(土) Turgutreis 快晴 北西 10 ノット

今日クニドスに向け出港を考えたが夕方から夜半にかけてクニドスの予報が30ノットの風なので入り江の棧橋での停泊は居心地が悪いので明日の出港にする。

朝食後今日は野菜と衣料の土曜市があるので買い出しに出かける。トルコは綿製品が主産業の一つで良い生地があるので衣料製品は安くて良い。

それぞれお好みの衣料を買う。その後野菜市場で当面の野菜を仕入れる。

お昼は艇に戻り冷ソーメンを頂く。

午後はそれぞれ気ままに過ごしていつもの豪華な夕食を頂く。今晚はそら豆で一杯やっ
てからヤサイサラダ、ほうれん草のおしたしと鶏、ジャガイモ、玉ねぎのスープ煮、そひ
て明太子とご飯で締める。

いずれも美味であった。

6月8日(日) Turgutreis~Knidos (22NM) 快晴 北西 10~南 10 ノット

今日から風も治まり穏やかな海になるので久しぶりの出港になる。マリーナの手続きと
朝食を済ました後、隣のハイドロレンジア号の稲次ご夫妻の見送りを受けて 08:45 クニド
スに向け出港する。

北西の追っ手の風を受けて途中からジェネカーを張り静かな海面を気持ち良く走る。

船に弱いと言っていた磯満里子さんも全く酔うことはなかった。

ダッチャ半島とコス島の間を抜けて 13:20 にクニドスの棧橋に舫う。

一休みした後日比谷、磯夫妻はローマ遺跡見学に行く。我々はもう 2 回も見ているので
艇で休む。悦子は海水浴、私はうたた寝をする。

皆さんが戻ってから酒盛りが始まり、話が盛り上がる。

夕方に近づくにつれてヨットが次々入ってきて、棧橋には結局 24 艇の係留になる。半
分以上がチャーターヨットだ。

ローマ劇場の遺跡を見ながら夕暮れ時の一杯をやる。夕食はトルコ料理を代表する料理
の野菜、米、肉を詰めてブドウの葉っぱで巻いたドルマ、鶏肉の煮込み、日本からのお土
産のほぐし鮭とご飯を頂く。トルコ料理のドルマも日本の鮭も美味しかった。

